

巻頭言

早稲田大学大学院法務研究科教授
古 谷 修 一

このたび、Law&Practice 第 18 号を発刊する運びとなりました。本誌の発刊に際し、ご寄付をはじめ、物心両面でご支援を賜った実務家・研究者の皆様、そして原稿執筆や編集作業を支えてくださった法務研究科の教職員の皆様に、心より感謝申し上げます。

2023 年度より司法試験の実施時期が変更され、ロースクール 3 年生は在学中の 7 月に受験が可能となりました。この変化により、カリキュラムの構成はもとより、学生の学習や生活にも大きな影響が出ています。2 年生は従来以上に司法試験科目の履修に忙しくなり、社会的な活動の時間も縮小を余儀なくされている状況です。また、就職活動も早期化しており、2 年生の夏のサマークラークを契機に、実質的な弁護士事務所訪問が始まっています。他方、7 月に司法試験を終えた 3 年生には、自らが関心を持つ分野の学習や、クリニック・エクスターンなどの実務科目を履修する余裕が生まれています。

こうした大きな変化の中で進められた第 18 号の編集作業では、学年ごとに学習や生活の様相が異なることから、チームとしての編集業務は大きな困難を伴うものでした。それでも、本誌が法務研究科創設時から受け継がれてきた伝統のもと、本年も無事に発刊できたことは大きな喜びです。

法曹養成を取り巻く環境が変わろうとも、法曹に求められる資質や責任に変わりはありません。本誌の編集を通じて、実務と理論を架橋し、そこから新しい法曹の在り方・役割を模索することは、「どのような法曹を目指すのか」という問いを自らに投げかけ続ける営みでもあります。こうした問いこそが、Law&Practice 発刊の目的であり、また早稲田ロースクールが掲げる「挑戦する法曹」を育む原動力でもあると確信しています。

本号の編集作業を支えた学生たちは、「伝統を引き継ぐ」という精神だけでなく、目の前の課題に挑み、「新しい何かを生み出す」という気概を持って臨んでくれました。この意味では、ロースクールでの学びや生活の変化も、さらなる進歩と発展への飛躍台となっています。

本号が、学生たちの努力と情熱の結晶として、日本における法律理論と実務の新たな発展に寄与することを願ってやみません。今後とも本誌へのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。